



仙台YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.305 2018

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

11

2018年11月10日発行
公益財団法人仙台YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人/村井伸夫
編集人/松島晃子

2018年10月6日(土)~8日(月・祝)の3日間の日程で、仙台YMCA立町会館及び山元町岩佐いちご農園、山形県山形市蔵王温泉ロッジZAOドッコ沼において、第49回全国YMCAリーダー研修会を行いました。「みつかる。つながる。よくなっていく。～YMCAとボランティアが創る未来を考える～」をテーマに、ボランティア経験が3年以上ある或いはそれと同等の経験や能力を持つ、各YMCAから推薦された全国YMCAのユースボランティアリーダーを対象に研修会を実施しました。



ユースボランティアリーダーたちが躍動

YMCAでは、「ユースエンパワーメント」を取り組んでいます。日本のYMCAでは、18歳から35歳までの世代をユースと位置づけ、エンパワーメント(元気づけること)により、たくさんの若者が大きく成長し社会で活躍することを願っています。そのエンパワーメントの一つとして、全国のYMCAからユースボランティアリーダーたちが集まり、学ぶ時間を持っています。3日間の研修では、東日本大震災以降現在も仙台YMCAが支援を続けている岩佐いちご農園でのワーク体験と震災当時のお話、また3名の講師からの講話を受け、一人のボランティアとしての自分自身を見つめ直すとともに、YMCAとユースボランティアリーダーたちの課題や可能性、今後の展望についてグループに分かれて話し合いを行いました。そして、それぞれが所属するYMCAに戻った後、担い手として関わり、共に未来を創る一人のユースボランティアリーダーとして活躍してくれることを願っています。また研修会では、学びの時間だけではなくリーダーたちが主催して交流会を行ったり、外に出てドッコ沼のひとりで歌を歌ったり、それが新しくできた仲間たちと楽しい時間を過ごしました。たくさんの学びと喜びがあった研修会ですが、各YMCAから参加した多くのユースボランティアリーダーからは、「つながる。」ことを強く望んでいる様子が見受けられました。「この仲間たちとずっと繋がってみたい」、「みんながいるから頑張れそう」、「最高の仲間たちを得た3日間でした」など、たくさんの仲間との出会いが大きな喜びとなった研修会でした。

健康教育事業部
佐藤 健吾



第49回全国YMCAリーダー研修会

強い熱気 「心の距離」縮まった

あたたかい雰囲気のある研修会でした。参加者同士の距離が物理的にも、そして気持ちの面でも近かったように感じます。それは、全体で共有できることが多くあったことや各YMCA、各リーダーの個性が埋もれていなかったからではないかと思います。研修会が終った後も、各YMCAから、報告会をしたという報告や意見交換がグループ単位だけでなく参加リーダー全体でたくさん行われていて、強い熱気を感じています。これも3日間をとおして近づいた参加者の心の距離の表れなのかなと思います。メンバーの頃からお世話になっている施設に宿泊したことやグループリーダーがいるということもあり、キャンプに参加しているような気持ちでした。また、私自身が自分がなぜボランティアをしているか悩んでいたところだったので、ボランティアについて改めて考えるとてもよい機会になりました。「ボランティア」というものについて、定義的な部分と本質的な部分の両方を実際の活動のお話をとおして学ぶことが出来ました。多様ではあるけれども根本的には同じだということ、また「ボランティアが当たり前の世界になって、いつかそれがなくなるこ



と」が理想であるというお話を特に印象に残っています。各YMCAの取り組みの紹介を聞いて、ユースボランティアリーダーからの発案による活動が多いことや、リーダーのよくなっているこうとする力の強さを感じました。仙台YMCAのリーダー

の間ではあまり見られない感覚かもしれない感じ、そうした各YMCAの活動はとても勉強になり、仙台でもできることは積極的に取り入れていきたいと思いました。

仙台YMCAユースボランティアリーダー
宮崎 涼さん(山形大学3年)

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。
共に生きる社会をめざします。
私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。
喜びのある生き方をすすめます。
私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。
世界平和の実現に努めます。
私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。
地球環境を大切にします。
私たちは、地球環境を守り、自然と人の共存をめざします。
ボランティアの働きを地域社会に拡げます。
私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に伝えあう喜びの輪を拡げます。
子どもたちの生きる力を育てます。
私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。



YMCAと私

齋藤 あずささん
(社会人ユースボランティアリーダー)

「ね」

YMCAとの出会いは小学4年生の時です。友だちの紹介でスキーキャンプに参加しました。キャンプの前日は行きたくない…と消極的だったのですが、帰って来ると「来年も行きたい!」と口していました。キャンプで出会ったリーダーや友だちと文通をしたり、定期的にあったり…。学校が違うのにたった4日間で特別な友達になっていました。その後、「同窓会」の感覚で高校生まで毎年キャンプに行き続けました。



「大学生になったらリーダーになりたい。」小学生の私の夢は、ついに叶いました。大学生の頃の私は、YMCAに行かない日がないくらい毎日プログラムに参加していました。うまくいかないことも多くあり、笑顔でいられない時もありました。「私が子どもの頃のリーダーはこんなに大変だったんだ!」といつも笑顔で接してくれた当時のリーダーの偉大さを感じる日々でした。

大学を卒業してから6年、社会人になってもリーダーを続けています。職場でも毎日子どもと関わっていますが叱ることが多く、反省の日々です。そんなときYMCAに来ると笑ったり泣いたり…素直に子供と関わることができ、自分を取り戻すことができます。「土日もYMCAに来て大変でしょ。」と声を掛けていただくこともたくさんありますが、私にとっては、土日があるからこそ、今の自分があるのだと感じており、社会人になっても関わらせていただいていることに感謝をしています。私にとってYMCAは、「ね」の歌詞のような人に会える大切な場所です。

「ね」

うまく言えそうにもないけど　いまお腹のど真ん中に
たしかにあったかいもの持てる　真っ直ぐに伝えたい
いろんな偶然が重なって
ここにこうしてあなたと一緒にいられることが
ただとてもうれしい　ら　らら
ね　おじいちゃんになっても　ね　おばあちゃんになっても
ずっとずっと一緒に仲良く　付き合ってみたいね　ね　ね

ボランティア ばらんていあ

今月はYMCA南大野田保育園幼稚部遠足ボランティアにご参加くださいました2名の保護者様からご寄稿いただきました

守屋元子さん
(守屋樹君・奏太君のお母様)



毎年、親子遠足が楽しみでした。今年は子どもだけの遠足だったので、残念だな~っと思っていましたが、ボランティア募集!!これは、はりきって行かねばと思い、応募させていただきました。当日は、天気も良く遠足日和。子ども達からは青グループ、赤グループなど異年齢活動の話は聞いていますが、実際に見えたことはなかったので、ひかり組・にじ組の子ども達がほし組の小さなお友だちをどうサポートしてあげているのかを見られると思い、母親の気持ちよりも仕事のような気持ちで参加しました。私は赤グループ担当。子ども達は行きのバスの中からテンション高めでしたが、動物園についてから大好きな動物を間近で見られて更にテンション高く楽しそうでした。私は動物よりもほし組さん!!ほし組さん!!ほし組さんに集中。動物見てる?転ばないでよ!!手つなぐよ!!「ほし組の担任、守屋です。」状態でした。皆で食べたお弁当おいしかったな~。ひかり組・にじ組さんも成長したな~。ほし組さんかわいいな。先生たちも毎日本當にありがとうございます。感謝の一日でした。

佐藤邦子さん
(佐藤由燈君・永奈ちゃんのお母様)



「遠足晴れるかな?お母さんお弁当忘れず作ってね!動物園に言ったらシロクマとトラが見たい!」と頂いたパンフレットもヨレヨレするほど楽しみにしていた遠足。当日は願いも届き快晴!普段と同じ道も、娘はスキップでルンルンでした。園の中も子ども達のワクワクでいっぱい、「今日は大きいバスに乗るんだ」「お弁当サンドウィッチなんだよ」と、とても賑やかな中、動物園へ出発しました。大きなバスには、皆大喜び、バスに乗る事を楽しみにしていた子も大満足な笑顔と歓声でした。動物園では、グループごとに見学、大好きなゾウ・キリン・シマウマに出会い「鼻長~い」「首長いね」「うんち」「くさい」。ガラス越しに迫力満点なホッキョクグマに「ガオ~!!」「こわい」と大満足。急な坂道にちいさなほし組さんもひかり組さんの手をかり、無事園を一周、待ちに待ったお弁当を開き愛情のこもったお弁当に喜ぶ姿にはとても心温まりました。大人になると何かを見たり、感じた時に気の利いたコメントを、なんて思ったりするのですが、子ども達は感じたままを瞬時にシンプルに表現してくれました。今ある環境に満足し、感謝し、「こうあるべき」というものにとらわれずにいる子ども達の姿に心の豊かさを感じる事ができた遠足になりました。引率の先生方、見守って下さった皆様に心から感謝致します。ありがとうございました。

特集 ①

2018 被災地小学生サッカー交流

総勢130名が集いサッカーを通じて交流 心をひとつに

10月20日(土)～21日(日)の2日間の日程で恒例となりました「2018被災地小学生サッカー交流」を実施いたしました。招待チーム、YMCA、Y's、保護者の方々含め、総勢130名程が東北学院大学泉キャンパスに集いました。招待チームとして気仙沼シャークスFC、鹿折フットボールクラブ、湊サッカースポーツ少年団、閑上サッカースポーツ少年団の4チームと、ホストチームとしてYMCAサッカークラブジュニアU-12、U-11の子どもたちが、ともにサッカーを通して交流を深めました。そして、21日(日)には仙台Y's、青葉城Y's、広瀬川Y's、石巻広域Y'sの方々も応援に駆け付けて下さいました。1日目は、昼前に東北学院大学泉キャンパスに集合し、昼食をとり、開会式の後に、混合チームを作りミニゲームを行いました。普段関わることのない子どもたちが、ひとつのチームとして協力し合い、励まし合いながらサッカーを楽しんでいました。天気は良かったのですが、夕方になり雲行きが怪しくなりあっという間の雷雨となりましたが子どもたちは無事でした。夕食やお風呂タイム、夜は長しと興奮気味の子どもたち。楽しみがたくさんありすぎて中々寝付けなかったようです。



2日目は快晴となり、気持ちのいい天気となりました。昨晚の寝不足をものともせず、子どもたちは朝から元気な様子でした。朝食を済ませ、部屋の清掃を終え、荷物移動をした後にメインイベントの交流試合のスタートです。YMCAサッカークラブU-10の子どもたちも加わり熱戦が繰り広げられました。Y'sの方々の応援もあり、試合は大いに盛り上がりを見せっていました。午前中は4チーム毎のトーナメント、午後は準決勝、決勝、3位決定戦が行われました。

2日間を通して、子どもたちが本当にいきいきとした表情の中、全力でサッカーを楽しんでいたと実感しました。勝ち負けの世界でもあるので、涙する子どももいましたが、みんなで励まし、「次、頑張ろう」と声を掛け合いながら前に進んで行く姿も見られました。この子どもたちが、次の世代の担い手となり、それを後押しする仲間がどんどん増えていってくれることを願うばかりです。

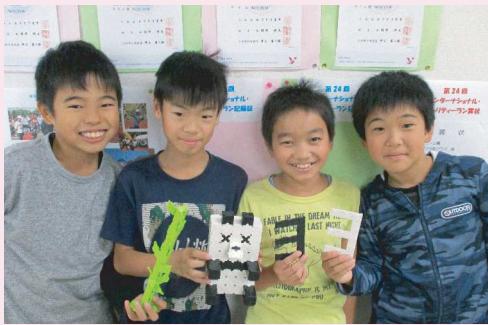
(斎藤 勉)



特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンターは2017年に富谷市の放課後児童クラブの運営受託を受け、「富ヶ丘小学校児童クラブ」、「あけの平小学校児童クラブ」、「日吉台小学校児童クラブ」の3施設の運営をしており、2018年度から更に3年間の運営受託を受けました。3施設とも車で5分くらいの距離にありますが、地域ごとに特色やニーズが異なり、それに寄り添うような運営を心がけております。

また、YMCAが初めて活動する地域でもあるので、法人の特色を運営に反映させていくことも私たちの使命と捉えています。野外活動やキャンプ、地域の高齢者との交流活動など、日常の活動だけでなく、非日常的な活動も取り入れながら、YMCAらしさを利用者だけではなく地域へも伝えていっています。まだスタートしたばかりですが少しづつ繋がりの輪(和)が増えていると感じております。

日吉台小学校児童クラブ



小学校から帰ってくると宿題に取り組む。これがいつもの光景です。ワイワイ騒ぎながら取り組む子どもも、集中して取り組む子どもも、疲れてはかどらない子ども、と様々です。その時いつも子どもが言ってくる言葉「答え教えて」。これが1年前

の児童クラブでよく聞かれる言葉でした。どうして答えが知りたいのか尋ねると、「早く終わらせたいから。」「間違うと先生や親に怒られるから。」という答えが多くありました。私は子ども達に「勉強は間違っていいんだよ。なぜ間違ったかを考えることが勉強なんだよ。間違うことは悪いことじゃなくて大切なことだよ。」と子ども達に話しました。それから、文字や意味が分からなくなると辞書で調べる子どもが少しずつではありますが増えました。今は何でもある時代で、調べることも簡単に出来る便利な世の中ですが、考える力が弱くなってしまったら、豊かな育ちはないと思っています。「答えを与える」ではなく「一緒に考える」この姿勢が子どもたちの生きる力を育んでいくと感じます。これからも一緒に考えて活動が出来る場所を作っていきます。(館長:尾木 善宣)

富ヶ丘小学校児童クラブ

富ヶ丘小学校児童クラブには、現在152名の子どもたちが登録しています。富ヶ丘では、毎月様々な行事を行っています。その中で他のYMCAの児童館、児童クラブ同様に自然体験活動の機会として年4回、「地球探検隊」というプログラムを行っています。業務委託になる前は、屋外の活動はほとんどなかったので、毎回、職員も子どもたちもドキドキ!楽しみも不安も半々です。9月に富谷市総合運動公園で初めて子どもたちと飯盒を使ったご飯炊きにチャレンジしました。お米の計り方から準備 火おこし、ご飯が炊けるまで子どもたちは何をやるにも真剣に取り組み、「今度は何を手伝う?」「枝をもっと拾ってくる?」「薪を入れてもいい?」と率先して子どもたち自身が手伝おうとする姿にとても嬉しく思いました。全員で協力してできたご飯は大成功!「おいしいね!」と子どもたちもおかわりしてお腹いっぱい。今回の地球探検を通して、普段は見られない子どもたちのいいところをたくさん発見できた機会となりました。今後、子どもたちの興味の幅を広げてあげられるような活動をさらに行ていきたいと思います。 (館長:佐々木由貴)



あけの平小学校 児童クラブ

あけの平小学校児童クラブは2年目の施設です。あけの平児童クラブの児童は、ボランティアの気持ちをもつ児童が多いように感じられます。普段の生活では時々洗濯物を干してくれたり、掃除も自らやりたいと言ってくれます。今年度は、初めてバザーで出店することになり、あけの平児童クラブはアクセサリーコーナーをすることにし、手作りのポンポンヘアゴムとミサンガを作つて売ろうと決めました。児童に「バザーで売れたお金は、みんなと同じくらいの年齢で困っている子どもたちの為に使われるんだよ」と話すと、職員と一緒に積極的に作成に協力してくれました。協力してくれた児童の中には「当日は手伝えないけど、私たちと同じ年齢の困っている子どもたちのためになるんだよね?」と言って、趣旨を理解して作成に協力してくれる児童もあり、心が熱くなったのを憶えています。

野外プログラムや工作等のプログラムでも高学年はリーダーの役割を頼めば、嫌な顔一つせず低学年をまとめてくれます。そんな、児童のボランティアの気持ちがYMCAの活動を通してもっともっと育つていってほしいと願っています。(館長:金谷 三平)

皆様のお支えに
心より感謝申し上げます

2018年10月1日～10月31日

◆一般会員

・維持会員

A会員/10,000円、B会員/20,000円
C会員/30,000円

A会員

工藤 悅子 石川 千賀子

・法人会員

A会員/10,000円、B会員/20,000円
C会員/30,000円

A会員 株式会社 ティス

以上、敬称略

仙台YMCA幼稚園

先日、年長組園児のおばあちゃんであり、Yニュース10月号でも紹介されていた“ばあちゃん”という愛称で親しまれている神原雅子さんをお招きして、わらべ歌遊びを行いました。正座で挨拶から始まり、円になって季節の歌を歌ったり、歌に合わせたおでだま遊びも体験しました。特に狐

と狸の人形劇は子どもたちが大笑いしながら「もう一回みたい」と口をそろえて言うほど、お気に入りのお話になりました。みんなで顔を見合せながら歌を歌うことで、“友だちと一緒に”ということを実感できた1日になりました。(小田 祥子)



仙台YMCA mini NEWS

生涯教育事業部 グローバルキッズ

10月27日(土)、グローバルキッズのハロウィンパーティー。講師の先生たちの仮装はさすがの完成度でした!思い思いの衣装で身を包み、英語を使ったゲームなど、楽しい時間を過ごしました。



第47回仙台YMCAクリスマスのお知らせ



今年で47回目を迎える仙台YMCAクリスマスが12月1日に開催されます。立町会館を会場とし、在留学生と一般市民が交流しながらクリスマスを祝います。

一緒に楽しい時を過ごしませんか？皆さまのご参加を心よりお待ちしております！

【日 時】 2018年12月1日(土) 18:00～20:30

【会 場】 仙台YMCA立町会館

【会 費】	留 学 生	無 料
	一般	1,000円
	中学生以上の学生	500円
	小学生	300円

【内 容】 礼拝、会食、交流会

※小学生以下の子様だけの参加はできません。

※会場の都合上、「ご予約」または「チケットの事前購入」が必要となります。

※当日券はございませんのであらかじめご了承ください。

街頭募金のお知らせ

«国際・地域協力募金特別プログラム委員会より»

第47回仙台YMCA国際・地域協力募金運動が今年度も推進されております。本年度は募金目標額を230万円とし、世界各国の災害や紛争にあった人びとにに対する緊急救援・復興活動への協力、各国の持続的開発・自助・自立を目指す働きへの協力、タイ農村ワークキャンププロジェクトなどの国際協力活動、子どもたちを中心とした地域支援協力、ボランティア養成等に支援させていただきます。

多くの皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



＜これからの予定＞

日時 11月23日(祝) 13:00～14:30
12月23日(祝) 13:00～14:30

場所 仙台三越近く(一番町商店街入口)、
フォーラス前、グッチ前、藤崎前

仙台YMCA国際・地域協力募金運動を地域の方に直接お伝えできる機会となります。街頭で共に呼びかけをしてくださる方を募集しています！ご賛同いただける方は仙台YMCA本部事務局または各施設までご連絡ください。よろしくお願ひ申し上げます。

第21回仙台YMCAチャリティゴルフ

10月18日(木) 泉国際ゴルフ倶楽部にて第21回仙台YMCAチャリティゴルフが開催されました。当日は最高気温18度と天候にも恵まれ、参加者は暖かな日差しの中でプレイをされていました。チャリティゴルフの開催にあたり「支援を必要としている子どもたちを励ます」の趣旨をご理解いただき、今回は92名の方々が参加してくださいました。岩手、東京、栃木、静岡、愛知、大阪など遠方からも、多数ご参加いただきました。当日はチャリティゴルフ実行委員およびボランティアに支えられ、スムーズに進行されました。また、皆様のご協力により、たくさんの協賛品が寄せられ、参加者の皆様に喜んでいただけました。皆様のご協力に支えられ、今年も仙台YMCAチャリティゴルフを無事に終了できましたことに心より感謝申し上げます。（山野 克俊）

＜総合＞

優勝：武山 東 様 準優勝：松崎 仁彦 様 第3位：奥田 幸子 様

＜女性の部＞

優勝：奥田 幸子 様 準優勝：楠 幸子 様 第3位：高橋 樹里 様

＜ベスグロ賞＞ 武山 東 様

協力・協賛

持田二郎、南部利行、大久保知宏、池上地久子、吉田紘子、菊地弘生、後藤光浩
河合良紀、清水川洋、清水弘一、石母田紋伽、三浦千里、郷古祐子、村井伸夫

泉国際ゴルフ倶楽部、さとう音楽事務所、CHUBB損害保険株式会社

株式会社岩手ホテル&リゾート安比高原、株式会社今商、株式会社阿部和工務店

株式会社泉タクシー、株式会社建設新聞社、株式会社緑水亭

ゴルフパートナー青葉山練習場店、有限会社佐々木保険事務所、有限会社親愛社

株式会社スイングアカデミー宮城、株式会社仙台銀行台原支店、

株式会社仙台銀行将監支店、株式会社みちのくゴルフ

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 仙台支店仙台第二支社

なごみだいにんぐ飛梅 クリスロード店、有限会社新生ホンダ販売

ロッジZAOドック沼、株式会社山形銀行南光台支店、仙台ワイズメンズクラブ

仙台青葉城ワイズメンズクラブ、仙台広瀬川ワイズメンズクラブ (順不同・敬称略)

